

# 関東都市学会ニュース 2023年4月号

(2023-1号)

発行 関東都市学会

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東1-50-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内

Tel: 045-374-6047

<E-mail> info@kanto-toshigakkai.com

http://www.kanto-toshigakkai.com

「関東都市学会」郵便振替：00130-9-33044、三菱UFJ銀行麹町中央支店普通口座 0201604

2023年度の関東都市学会春季大会を、対面とZOOMによるオンラインのハイブリッド形式で開催いたします。会員の皆様には、5月17日(水)までにご参加申込をいただき(対面参加とオンライン参加いずれの場合でも)、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。全会員宛てに、5月13日(土)までにメールでオンライン参加に必要なIDとパスワードをお送りいたします。学会に登録されているメールが無効である場合はメールが届きません。メールが届かなかった場合(学会にメールアドレスを未登録の場合を含む)は、事務局(info@kanto-toshigakkai.com)まで、有効なメールアドレスをご連絡ください。また、春季大会に先立って各委員会・理事会を開催いたします。

2023年度総会も、春季大会と同日、シンポジウム後に対面とZOOMによるオンラインのハイブリッド形式で実施します。総会に先立ち、関東都市学会常任理事選挙の投票を郵送方式にて実施いたします。本ニュースレターと同封されています選挙に関する書類をご確認いただき、5月12日(金)(消印有効)までにお送り願います。

↓春季大会・総会および委員会・理事会へのご参加申込はこちらからお願いいたします↓



または <https://forms.gle/42UiDiYV6jR1HQWg7> にアクセス  
いずれでもお申込ができない場合は、事務局 (info@kanto-toshigakkai.com) へ対面とオンラインいずれで参加されるかをメールにてお知らせください。

## 関東都市学会 2023年度春季大会のご案内

開催日時 : 2023年5月20日(土) 12:30~18:00

開催場所: 【対面】高崎経済大学1号館111教室 【オンライン】ZOOM ミーティング

【自由報告】 12:30~13:45

報告① 「東京」の境界を再考する—首都圏成立期の圏域画定過程に着目して—

谷 公太 (慶應義塾大学大学院)

報告② 「東京都において再生されたマンションの立地特性と課題」

川原 伸朗 (株式会社オリエンタルコンサルタンツ)

報告③ 「若者にとっての都市や地域の概念—大学の授業における学生の回答から—」

伊藤 雅一 (茨城大学)

【シンポジウム】 13:50~16:30 ※詳細は2~3ページ

「変わりゆく生活スタイルと居住・交流・関係の場—地方と都市の役割—」

【総会・理事改選】 16:40~18:00

## 関東都市学会 理事会・各委員会のご案内

開催日時 2023年5月20日(土) 10:00~12:00

編集委員会 10:00~10:30

開催場所: 【対面】高崎経済大学1号館131教室

研究活動委員会 10:30~11:00

【オンライン】ZOOM ミーティング

理事会 11:00~12:00

\*理事会および各委員会で配布されたい資料は、事前にそれぞれのメーリングリストと事務局メールアドレスにお送りいただけますようお願いいたします。

【解題】 大会テーマ「変わりゆく生活スタイルと居住・交流・関係の場 ―地方と都市の役割―」

米本 清（研究活動委員長）

関東都市学会では 2021 年度を中心に、新型コロナウイルスの蔓延が都市やその研究に及ぼす影響に関する検証を重ねてきた。コロナ禍が始まって以来リモートワークやこれを踏まえた郊外・地方居住などが脚光を浴びてきたが、ウイルスの流行も 8 波を数える中、人々の関心はより一般的・中長期的なウィズコロナ／ポストコロナの生活様式へと移りつつある。これらの動きは決してコロナ禍だけを踏まえて新たに生じたものではなく、その胎動は以前から各都市や地方の中に存在していたものであるから、検証にあたっては単に眼前の事象を追うだけではなく、コロナ期前後における学会内外の研究成果を高度に総合し発展させる必要性がある。

都市や地方を取り巻く新潮流の背景には、生活スタイルの多様化・個性化や、ICT・AI 技術の進歩に伴う DX の普及、働き方改革などがあるとされる。もちろん都市も地方も古代からモノやサービスの生産・消費や生活一般、移動などに関する技術の実験場であり続けたし、その応用に伴って絶えず変化してきた。ただしその変化はこれまで物理的な空間や慣習などに大きく縛られてきたし、研究者による現状把握や検証も多くがこうした制約を前提にしたものであった。しかしながら今日の多様化・個性化や DX 化は、潜在的にこれらを飛躍的に自由にするものであり、例えば名目上は大都市に勤務しながら地方に居住する、多様な価値観を持つ人々が地方のコミュニティにハイブリッド方式で「集まり」これまでの経緯から解放された議論を行う、などといったさまざまな可能性を持つものである。行政においても、伝統的な価値観や方法論が支配的であった地方における大きな変革に対して積極的な向きは少なかったが、近年は進行する少子高齢化・人口減少などに対応し、デジタル田園都市国家構想や各自治体の前向きな取り組みなど、比較的柔軟に新潮流を受け入れ活用しようという動きが顕著になってきた。「人口」として定住人口だけでなくいわゆる交流人口や関係人口を評価しようという流れも一層進んでいる。

こうした背景を踏まえ、今回の検証においてはこれからの地方と都市の役割、とくに前者に焦点を当てつつ、新しい生活スタイルがもたらす変化について議論を行いたい。なおコロナ禍のように不意に生じた事象を取り扱う訳ではないから、新しい動きを表面的に追うよりも、昨年度よりさらに専門的な、これまでの研究理論や手法の蓄積を踏まえた知の発展が可能であろうと考える。つまり、本大会は本学会において久々にわれわれが自らの専門性を高度に活かしつつ、地に足の着いた学究の世界から再び対象を見つめ直すことができる機会、しかもその中で変わりゆくもの、新しいものを浮き彫りにする機会となるであろう。また真に変化を捉えるためには、地方・都市の構造やそこに暮らす人々の幸福感、ウェルビーイングなどに対する洞察も必要である。このたびの検証が、参加する全ての人々にとり地方・都市への理解を大きく深めるものとなれば幸いである。

**【シンポジウムプログラム】 13:50～16:30** 司会・進行：佐藤英人（高崎経済大学）

開会挨拶：大矢根淳（関東都市学会会長・専修大学）

解題：米本 清（関東都市学会研究活動委員長・高崎経済大学）

報告1：「関係人口という新しいライフスタイル」（仮）

田中輝美（島根県立大学）

報告2：「アイデアをもって自ら行動する人が掴むローカルドリーム」（仮）

野澤隆生（辰野町産業振興課）、赤羽孝太（一般社団法人〇（まる）と編集社代表理事）

報告3：「開放的なく関わりの場」の集積と継続—山形県西村山郡西川町の事例を踏まえて—（仮）

土居洋平（跡見学園女子大学）

コメンテーター：須藤文彦（水戸市役所）

《その後、質疑応答および討論》

**【春季大会の会場について】**

高崎経済大学 1号館 111 教室 住所：群馬県高崎市上並榎町 1300 番地

**■アクセス**

JR 高崎駅西口からバスに乗車

路線バスの場合：2番乗り場から「高崎駅—経大前—沖白川橋—箕郷」区間もしくは「高崎駅—経大前—本郷—室田—榛名湖」区間に乗車し、「経済大学前」バス停で降車

市内循環バス「ぐるりん」の場合：4番乗り場から系統番号3「経大・金井淵コース【下り】」に乗車し、「高経大前」バス停（路線バスと同地点のバス停）で降車

\*公共交通のご利用をお勧めいたしますが、自動車をご利用の場合は、正門にて学会参加の旨お申し出の上ご駐車いただき、大会受付にてお声がけください。

**■キャンパス周辺地図（略）**

## ■バス時刻

高崎駅西口発	高経大前着※1	路線※2	高経大前発※1	高崎駅西口着	路線※2
9:30	9:44	群・榛名湖行	16:30	16:55	群・駅西口行
9:30	9:50	ぐ・高経大線	16:36	17:10	ぐ・高経大線
10:00	10:14	群・室田行	17:16	17:50	ぐ・高経大線
10:30	10:44	群・室田行	17:42	18:05	群・駅西口行
10:45	11:05	ぐ・高経大線	19:00	19:25	群・駅西口行
11:30	11:44	群・榛名湖行	上記の他、総会終了後（18:00 予定）に 大学バスでも駅西口まで送迎いたします。 【下記参照】		
11:50	12:10	ぐ・高経大線			
12:30	12:44	群・榛名湖行			
12:50	13:10	ぐ・高経大線			
13:30	13:44	群・室田行			

※1 群馬バスのバス停名は「経済大学前」

※2 群馬バス（群）は片道 300 円、コミュニティバスぐるりん（ぐ）は片道 200 円。

※3 路線バス（群馬バス）、ぐるりんともに交通系 IC で乗車できます。乗車と降車の際にそれぞれセンサーへ交通系 IC をタッチして運賃をお支払いください。

## ■帰路の大学バス利用について

土曜日は 18 時台のバスがないため、総会終了後（18:00 予定）に大学バスでも高崎駅西口までお送りいたします。

18:00 過ぎ大学構内発、所要 20 分程度（無料）

※往路は公共のバスをご利用ください。

## ■ご宿泊の場合（ご注意）

ご宿泊をご予定の方は、大会前日・当日（5/19・5/20）ともに、他のイベントなどの関係で高崎駅周辺の宿はすでに僅少となっている状況のようですので、早めにご検討ください。

なお、高崎市内で適当な宿が見つからない場合、近隣の前橋市内（電車で 15 分）、もしくは本庄・深谷・熊谷・さいたま市内などもご検討ください。

## ■屋食など（ご注意）

当日は、大学構内の生協などはお休みです。大学正門から 200m の場所にセブンイレブンがあります（場所は 3 ページのキャンパス周辺地図を参照）。

## ■その他

今回は公式の懇親会は設定しておりませんが、大会終了後、対面ご参加の方々にはご希望に応じ飲食店などのご紹介をいたします。

## お知らせ・募集

### 【2023 年度会費納入のお願い】

2023 年度の関東都市学会年会費の納入をお願いいたします。これまでの会費納入状況と振込用紙を同封いたしましたので、お確かめ下さい。2022 年度以前の年会費をまだ納めておられない方は、さかのぼって会費をお納めいただくようお願いいたします。なお、2 年度以上にわたって会費を滞納された方は、関東都市学会から日本都市学会本部に向けて提出する年度ごとの会員名簿から自動的に削除され、『日本都市学会年報』及び「日本都市学会ニュース」等が届かなくなるといった支障が生じますのでご注意ください。また 4 年度以上にわたって会費を滞納された方に対しては、原則として除籍の措置をとらせていただきます。会費支払と会員資格（関東都市学会及び日本都市学会）に関してのお問合せは、関東都市学会事務局まで文書あるいは e-mail でお願いいたします。

### 【『関東都市学会年報』第 24 号について】

前号のニューズレターにてお知らせしました通り、『関東都市学会年報』第 24 号は、2023 年 5 月中には会員各位のお手元にお届けできるよう作業を進めております。いましばらく、お待ち願います。

### 【『関東都市学会年報』第 25 号 自由投稿論文 募集のお知らせ】

『関東都市学会年報』第 25 号への自由投稿論文を募集いたします。原稿締切は 2023 年 6 月末です。自由投稿論文は、本学会の大会や研究例会、または日本都市学会の大会で行った口頭発表に基づく論文であることを原則とします。関東都市学会サイト <http://www.kanto-toshigakkai.com/> の「年報の投稿について」ページに掲載しました「投稿要項」・「執筆要項」をご確認のうえ、投稿してください。また、他地域都市学会の会員も所定の投稿料をお支払いいただければご投稿いただけます。

なお、直近に刊行される『関東都市学会年報』に「自由投稿論文」（査読付）を投稿する場合の、毎年のスケジュールの概要を、参考としてまとめます。ただし、変更が生じる可能性もありますので、詳しくは Web サイト・今後の「関東都市学会ニュース」等で、その都度ご確認ください。

	口頭発表の機会	年報に関するスケジュール
刊行前年度 9 月～10 月前半 10 月後半～11 月前半 3 月	関東都市学会研究例会 日本都市学会大会 関東都市学会研究例会	
刊行年度 5 月後半～6 月前半 6 月末日 3 月	関東都市学会春季大会	『関東都市学会年報』自由投稿論文 投稿締切 『関東都市学会年報』刊行予定

※口頭発表後の直近に刊行される『関東都市学会年報』ではなく、それ以降の年報にも投稿は可能です。

※関東都市学会の春季大会や研究例会で行った口頭発表に基づく論文は、『日本都市学会年報』にも投稿することができます。『日本都市学会年報』の「査読付き論文」の投稿締切は、原則日本都市学会大会が開催された月の翌月末（ただし 2023 年は 11 月末）で、前年度の日本都市学会大会終了日の翌日から、当該年度の投稿締切日の前日までに口頭発表した場合のみ、投稿することができます。『日本都市学会年報』の刊行は、例年では大会開催の翌年 5 月頃です。詳細は Web サイト等で各自ご確認ください。

## 【2023年度 第1回研究例会 報告者募集】

2023年9月中旬もしくは下旬に開催いたします、2023年度第1回研究例会の報告者を募集します。日程や会場の詳細は6月中旬ごろに学会ホームページと会員向けメーリングリストにてお知らせします。当日は対面とzoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催しますが、報告者は対面にてご参加いただきます。ご希望の方は氏名、報告タイトル、内容の概要(300字前後)をe-mailで、関東都市学会事務局 info@kantotoshigakkai.com までお寄せください。2023年7月20日(木)を〆切とします。申し込みが〆切を過ぎる場合には事務局までお問合せください。

## 【2023年度 今後の活動予定】

2023年9月中旬もしくは下旬に関東都市学会2023年度第1回研究例会および理事会・委員会を開催いたします。また、2023年11月3日(金)～11月5日(日)に、日本都市学会第70回大会が小田原市にて開催されます。それに伴い、関東都市学会の秋季大会は行いませんので、ぜひ日本都市学会小田原大会に参加いただきますようお願いいたします。詳細は次号ニュースレターをご覧ください。

## 【会員の異動】

(略)

## 関東都市学会 2022年度第4回理事会報告

2023年3月26日(日)に開催された2022年度第4回理事会の主な内容は次の通りです。

1. 本日の研究例会について
2. 関東都市学会2023年度春季大会について
  - ・ 研究活動委員長および事務局長から委員会・理事会を含む当日の全体スケジュール案とシンポジストの案が提示され、承認された。
  - ・ 開催校の運営担当者は、山本匡毅理事を中心に米本清理事とともに担うことが承認された。
3. 今後の大会等について
  - ・ 2023年度第1回研究例会および第2回研究例会の日程、会場等については理事の改選後に検討することが承認された。
  - ・ 2023年度関東都市学会秋季大会は、2023年度日本都市学会大会が小田原市で開催されるため実施しないことが確認された。また、小田原大会については、関東都市学会内での運営の役割分担などを確認する必要があるとの指摘があった。
4. 2023年度日本都市学会の大会運営について
  - ・ 平井理事より大会テーマとシンポジストについて原案が示され、検討を行った。シンポジストは原案通り依頼を進めることが承認された。また、大会テーマ案等を次回の関東都市学会理事会で検討したうえで日本都市学会理事会に提案することが確認された。
  - ・ 大会担当事務局担当者を5月の理事改選で指名する方向で検討することが確認された。

5. 研究活動委員会から
  - ・ 来年度以降の体制について検討を進めていることが報告された。
6. 編集委員会から
  - ・ 年報 24 号の編集作業を進めており、4 月末には完成予定であることが報告された。
  - ・ 編集作業における校閲と組版の外部委託について、見積もりを取るなど具体的に検討を進めていること、また紙媒体での年報の発行についても今後検討が必要であることが報告された。
  - ・ 年報第 19 号以降の J-STAGE への掲載作業を今後進めることが報告された。
7. 日本都市学会理事から
  - ・ 日本都市学会年報の刊行が遅れた件について、今後このようなことがないように検討していることが報告された。
8. 日本都市学会賞推薦候補図書募集結果について
  - ・ 後藤範章会員著の『鉄道交通と巨大都市化の社会学—「東京」の構造変動』（日本評論社、2022 年）を、関東都市学会として推薦することが承認された。
9. 理事選挙について
  - ・ 事務局長より常任理事選挙等要項（案）が示され、原案通り承認された。これに伴い、選挙管理委員長として山本匡毅理事が選任された。また、山本選挙管理委員長より、伊藤雅一会員および佐藤英人会員が選挙管理委員候補として推挙され、承認された。
  - ・ 投票の手順について事務局長より提案され、会員からの投票用紙の発送期日を 5 月 12 日（金）消印有効、春季大会会場にて開票とすることが承認された。
10. 長期会費未納者の会員資格について
  - ・ 郵送による理事選挙への移行に伴い、2020 年 3 月の理事会で承認された「退会・除籍・会員サービス提供の考え方」を改訂し、退会届は出されないが 4 年間の会費未納がある場合、自動的に会員資格を失効し、除籍に向けた手続きを行う改定案が事務局長より示され承認された。
11. 事務局から
  - ・ 6 ページで示した通り、会員の異動が報告された。また、2019 年からの会費未納者（対象者 5 名）に対し手続きを進めていくことが報告され、承認された。連絡が不着となっている会員（該当者 2 名）がいることも報告された。
  - ・ ホームページのリニューアルに向けて委託先の会社と相談の上、来年度には予算化し、作業を行うことが報告された。
12. その他
  - ・ 年報 3 号～18 号を、2021 年 3 月の理事会で決定している方針に則り各号 3 部程度を残して処分することが西野理事より報告された。

## 関東都市学会 2022 年度第 2 回研究例会（2023.3.26）の記録

関東都市学会研究例会 印象記

吉田 資（ニッセイ基礎研究所）

冷たい雨で、花冷えとなった 2023 年 3 月 26 日（日）に 2022 年度関東都市学会第 2 回研究例会が対面（日本大学文理学部キャンパス）とオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式にて開催された。

さて、今回の研究例会は1本の報告と、研究活動委員会「ラウンドテーブル企画」のパイロット報告があった。

報告は、吉田和広氏（法政大学大学院）による「東京都足立区における地域帰属意識と地域スティグマ」である。本研究は、東京都足立区を対象に、居住者が被地域スティグマを抱えているのか、被地域スティグマがみられる場合にどの属性で顕著なのかをアンケート調査から明らかにしようとしたものである。2021年に東京都区部の住民約2千人を対象に実施した調査では、足立区は、他区と比較して「居住区の対外的イメージ」項目のみが低位で、特に居住期間が長期で、かつ年齢が46才未満の回答群が低い結果となった。この結果から、足立区は被地域スティグマを依然として抱えているが、居住期間が短い住民は被地域スティグマが弱く、足立区のイメージ改善の取組みが実を結んでいるとの報告があった。質疑応答では、居住期間が短いがゆえ地域への理解が進んでおらず上記の結果となった可能性はないか、隣接する埼玉県南部の居住者からみた足立区のイメージはどうか、等の意見が挙がった。筆者は業務で不動産評価に携わっているが、本研究のテーマである「地域のイメージ」は重要な評価項目の1つである。人々の関心も高いトピックであり、多くの地方自治体がイメージ向上の施策に取り組んでいる。その施策の効果検証は重要性が高まっているといえよう。例えば、足立区でイメージ改善に寄与した考えられる具体的な取組みがぜひ知りたいところであった。報告内容のさらなる探究が期待される場所である。

研究活動委員会「ラウンドテーブル企画」のパイロット報告は、伊藤雅一氏（茨城大学）による「非-移動性の社会学の移転可能性—自分史をふまえて」である。本報告では、研究交流の契機として、興味関心の共有を目的とした「自分史からみる都市や地域」、現時点の研究に関する情報共有を目的とした「研究経過」、研究課題の共有を目的とした「暫定的な展望」の3パートに分けて、話題提供がなされた。

民間企業に所属する実務家として、学会に参加させて頂いている立場として、大変有意義な報告であった。興味関心の背景となる「自分史」から現在の研究内容、そこにおける課題について一貫性をもってご説明頂いたことで、理解が深まった。

2022年度に入会した筆者は、初めて研究例会に参加させて頂いたが、いずれの報告も示唆に富むものであり、都市調査の視点・関心を広げる貴重な機会となった。研究例会実施に向けて、様々なご準備をいただいた関係者の皆さまに御礼を申し上げたい。